

きたりすナトキンのはなし



ベアトリクス・ポッター さく・え

おおくぼ ゆう やく

きたりすナトキンのはなし



ベアトリクス・ポッター さく・え
おおくぼゆう やく



ノラに おくる ものがたり



これは おはなしです—つまりは きたりすの しっぽの はなしで、 そのこの なまえは ナトキンと いいました。

チンクルベリという おにいさんと おおぜいの いとこがいて、 みんなして みずうみの ほとりにある 1ぽんの きに すんでいました。



そのみずうみの まんなかには しまが あって、 もりと どんぐりの やぶに おおわれて、 1ぽんの がらんどうに なった ナラのきが ありました。 そこは しまの ぬしである ブラウンという ふくろうの おうちでした。



あるとしの あきは きのみも たわわ、 ハシバミの やぶでも はっぱが きいろに みどり ー ナトキンと チンクルベリは おおぜいの こどもりすと いっしょに もりの そとへ でて、 みずうみの ほとりへと むかいました。



ちからを あわせて きのえだで こぶりの いかだを つくって、 みなもを こぎこぎ、 どんぐりを あつめに ふくろうの しまへ むかいます。

ひとりひとり ちいさな ふくろと おおきな オールを てにして、 ほぬのがわりに しっぽを のばします。



しまの めし ブラウンへの てみやげとして 3びきの ぶくぶくとした ねずみも つれて行って、 とぐちの ところへ さしだしました。

それから チンクルベリと りすいちどうは いっせいに ふかぶかと おじぎをして、 ていねいな ことばづかいで、

「しまの めし ブラウンさま、 どうか このしまの どんぐりを とること おゆるし ねがえませんか？」



ところが ナトキンの たいどは めに あまるほど なまいきで、 あかい サクランボみたいに ふらふらと うごきながら こんなことを うたうのです。

「なぞなぞ なぞなぞ といてみろ！

あかい ふく きた ちびっこが

てには ぼうきれ、 のどには こいし、

このなぞ とけたら おだちんやるぞ。」

とはいえ このなぞなぞは むかしながらの ものなので、 しまぬしさまも ナトキンを とことん むししました。

かたく めを つむると ぐっすり すやすや。



りすたちは ちいさな ふくろ いっぱいに どんぐりを つめ、 ひが くれると
いかだを こいで おうちへ かえりました。



けれども あくるひの あさ ふくろうの しまに もういちど みんなで むかいました。 チンクルベリたちは 1ぴきの まるまる ふとった もぐらをもっていて、 しまぬしさまの とぐちまえにある いしの うえへと のせて、 いいました。

「ブラウンさま、 どうか もっと どんぐりを とること、 おおめに みて いただけませんか？」



ところが ナトキンは ぶれいせんばん ぴよこぴよこ あたりを うごきまわって、
しまぬしさまを イラクサで ちくりと さし、 うたを うたうのです。

「ブーの じじい、 なぞなぞ とけよ！

ヒッチピッチが かべのなか

ヒッチピッチは かべのそと

ヒッチピッチに さわったら

ヒッチピッチが かみつくぞ！」

しまぬしさまは やにわに めを あけると、 もぐらを かかえて おうちの な
かへ はいってしまいました。



ナトキンの めのまえで とびらが しまり、 やがて まきを もやす こい け
むりが ほっそりと きの てっぺんから ふきだしてきました。 そこで ナトキン
は かぎあなから なかを のぞいて またしても うたいます。

「おうちはいっぱい、 あなも いっぱい！

だから おわん 1 ぱいぶんも あつまらない！」



りすたちは しまじゅうで どんぐりを さがし、 ちいさな ふくろを いっぱいに しました。

けれども ナトキンは きいろや あかの むしこぶを ひろいあつめて、 ブナの きりかぶに すわって たまあそびを しながら しまぬしさまの おうちの とびらを じっと みはるのです。



みっかめの りすたちは はやおきして つりに でかけました。 つりあげた 7
ひきの ぷりぷりした コイは しまぬしさまへの みつぎものです。

みんなで みずうみを わたり、 ふくろうじまの ひんまがった クリのきの し
たから おかに あがります。



チンクルベリと 6ぴきの りすは ぷりぷりした コイを それぞれ 1ぴきずつ
はこんだのですが、 ナトキンはおぎょうぎも よくないので みつぎものなんか
まったく もちません。 いちばん まえを はしって、 うたを くちずさむの
です。

「あれちの おとこが ぼくに つげた
『うみでは イチゴは いくつ そだつ?』
しょうがないから こたえは 『もりで
にしんの くんせい そだつ かず。』」

それでも しまぬしさまは なぞなぞを どうとも しないのです。 せっかく こ
たえまで おしえてあげたのに。



よっかめの りすたちの おみやげは まるまるした カブトムシ 6ぴきで、ぬしさまからすれば プラムプディングに はいってる プラムみたいな ものなのです。カブトムシは 1ぴきずつ ギシギシの はっぱで ていねいに くるんで、マツバを さして とめてありました。にもかかわらず ナトキンは あいもかわらず うたいます。

「ブーの じじい！ なぞなぞ とけよ
イギリスこむぎこ スペインくだもの
どしゃぶりのなか はちあわせ、
ぐるぐるまきで ふくろに いれろ、
このなぞ とけたら ゆびわを やるぞ！」

そんなこと いうなんて ナトキンも おばかさんです。だって しまぬすさまに さしあげる ゆびわなんて そもそも ないんですから。



ほかのリスたちはやぶを駆けまわってどんぐりをひろっていたというのに、ナトキンはイバラからおちたむしこぶを、あつめてみんなマツバのほりでめったざしにしてみました。



いつかめに りすたちが みついだのは、 とれたての はちみつだんご。 とっても
あまくて とろとろ していて、 いしの うえに おいたあとでも ゆびを
ねぶってしまうほどです。 おかの てっぺんぺんにある まるはなばちの すから
かっぱらってきた ものでした。

ところが ナトキンは あたりを スキップしながら うたいます。

「ぶうんぶん！ ぶぶ！ ぶぶ！ ぶうんぶん！

チップルチンの あたりを ゆけば

ぶうぶうブタの むれに であう

きいろの おくびに きいろい おけつ！

やつらは チップルチンの あたりでは

いちばん ぶうぶう なくブタよ。」



しまぬしさまは ナトキンの ぶれいな ふるまいに いやけが さして めを そ
むけました。

それでも はちみつは めしあがりましたけど！



りすたちは みんなで こぶくろに どんぐりを つめました。
けれども ナトキンは ひらべったい おおいわの うえに あがって、 ヒメリン
ゴと モミの まつかさで ボウリングあそびです。



むいかめは どうようびで りすたちが くるのも これで さいご。 ちいさな い
ぐさの かごで うみたての たまごを もってきて、 ぬしさまへの おわかれとば
かりに さしあげるのです。

それなのに ナトキンは まえを かけまわって おおごえで ー

「ハンプティダンプティ ところにふす

かけぶとんが こんもりと

いしゃが40 だいくが40

それでもなおらぬ ハンプティダンプティ！」



それはさておき しまぬしさまは たまごが いたく おきにいりで、 かためを
あけて また とじました。 でも やっぱり なんとも シャベリません。



ナトキンは ますます いいきに なって ー

「ブーの じじい！ ブーのじじい！

はづな、 はづな、 おしろの

いたばの ドアの ところ

うまと けらいが そうででも

おしろの いたばの ドアからは

はづな はづなは はずされぬ。」

ナトキンの おどりあばれる さまは まるで おひさまの ひかりのようでしたが、
それでも しまぬしさまは びどうだに しません。



ナトキンは またも はじめます ー

「ゆみひき アーサー なわぬけて
おたけび あげて さんじょうだ
スコットランドの おうの ちからも
ゆみひき アーサー とめられぬ。」

ナトキンの うるささと いったら もう あらしのようで、 あげくの はてに
しまぬしさまの ずじょうに ぴょーんと とびかかったのです！

すると みんな いっせいに ちらばって、 ちゅーと さけんで おおさわぎ。
ぜんいんが あわてふためき、 やぶのなかへと きえてしまいました。



やがて こっそり もどってきて きのうらから ようすを うかがうと、 しまぬ
しさまは とぐちのところに すわったまま びくともせず めを とじていて、 ま
るで なにも なかったかのよう。

* * * *

ところが ナトキンが ぬしさまの おなかの けのなかに おさまっているでは
ありませんか！



ここで おはなしが おちそうなものですが、 そうは いきません。



ぬしさまは ナトキンを おうちのなかへ つれこんで、 そのしっぽを つかんで
かわを はごうと しました。 けれども ナトキンも ぐっと つよく ひっぱっ
たので、 しっぽは まんなかで ちぎれてしまったのです。 そのまま かいだんを
かけあがって、 やねうらの まどから にげだしました。



そんなわけで いまの いまでも きのうえに のぼって ナトキンに なぞなぞを
だそうものなら、 えだを なげつけてきて じだんだ ふんで、 ぷんすか わめ
くでしょう ー

「くそ ー くそ ー くそ ー くっそ ー くそおお！」

Original Text: *The Tale of Squirrel Nutkin* (1903)

Original Author: Beatrix Potter (1866-1943)

※著作者の死後および著作公表後61年がすでに経過しているため、この作品を日本国内におけるパブリックドメインとして利用しております。もし何か問題があるようでしたらご指摘の方いただくと幸いです。

きたりすナトキンのはなし

<http://p.booklog.jp/book/32109>

著者：ベアトリクス・ポッター

訳者：大久保ゆう

発行：Alz

発行元情報：<http://p.booklog.jp/users/alz/profile>

※この翻訳は「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」
(<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>) によって公開されています。
上記のライセンスに従って、訳者に断りなく自由に利用・複製・再配布することができます。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/32109>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/32109>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.